

# 5 乳幼児の急病

## 発熱

- ・40度近い高熱、意識うつろ、ぐったり  
⇒小児科や救急病院へ
- ・38度前後の発熱。顔色、機嫌、食欲、意識良好  
⇒家庭で応急手当。様子をみて小児科へ



- ①布団に寝かせて安静に。  
毛布やかけ布団で保温し、暑がる  
様子を見せたら加減を。
- ②腋窩えきか（わきの下）、鼠径そけい（太ももの  
つけ根）に氷のうをあてて冷却を  
行う。
- ③汗をかいたら乾いたタオルで体を  
ふき、こまめに下着を取り替える。
- ④刺激の少ない飲みもので水分補給  
を十分に（熱上昇・脱水症状の防  
止）。
- ⑤解熱剤（坐薬）の使用は医師の指  
示に従って。



乳幼児の発熱でもっとも多い原因は、かぜや麻疹（はしか）などのウイルス感染です。発熱はウイルスに対する体の防御反応で、38度前後なら緊急性はほとんどありません。しかし、40度に達するような高熱では、ひきつけ（熱性けいれん）や脳などへの影響も心配されるため、すみやかな解熱の処置が必要になります。